

さくらのひと、みっけ！

世界に挑む仲良し兄弟 二人で磨いた折れない強さ



こま い はると ゆうと
駒井 晴友さん・結友さん

駒井晴友さんと結友さんは、今年8月に千葉県浦安市で開催された糸洲流国際空手道選手権大会の型競技に出場しました。兄弟で全国大会を勝ち抜いてつかんだ、世界大会への切符です。

二人の空手経験は3年ほど。空手を習っていた親戚にすすめられ見学に行くと「カッコよくて、試合に勝ったらうれしいだろうな。楽しそう」と、あっという間に魅了されたといいます。

難しいのは「正しく型を覚えること」という二人は、時には涙を流しながらも師範・先輩・家族と一緒に練習を重ねてきました。兄の晴友さんは「負け続けていたライバルに初めて勝利したときすごくうれしかったし、練習をがんばってよかった」と力強く話します。

二人の強さを支えているのは決して折れない心。多くの審判や観客の前でいつもの力を発揮するには、集中力がとても重要です。二人は試合の経験を重ね、試合の直前まで泣いていても優勝できるまでに成長。弟の結友さんは「いつもめっちゃ緊張する」と話しながらも、昨年は全国大会に出場しました。

これからの目標を「空手で学んだことを生かして、いろいろなことに挑戦したい」と元気に話す二人。兄弟で互いを意識し高め合いながら目標に向かって挑戦する姿から、これからも目が離せません。

発掘調査現場から (313)

藤原京の宅地を調査 ～大藤原京関連遺跡第75次調査～

大藤原京関連遺跡第75次調査は、道路拡幅のため近鉄大福駅から南西100mほどの場所で行いました。周辺の調査では藤原京の条坊側溝が見つかり、調査地すぐ北側の60次調査では南北道路である東八坊坊間路が確認され、35・74次調査では東西道路である北一条条間路が確認されています。

今回の調査では中世の素掘り小溝、藤原京期（7世紀末～8世紀初頭）の掘立柱建物跡1棟・柱穴・井戸・弥生時代の流路などが見つかりました。今回見つかった藤原京期の掘立柱建物跡は隅丸方形の柱穴と円形の柱穴によって構成され、間隔が約1.3mで並んでいました。南北で柱の続きが見つからなかったことから、南北2間、東西2間以

上となる東西に長い建物跡が存在したと考えられます。この他にも、土器とともに沢山の炭や焼けた痕跡のある木、桃の種が出土した土坑、直径1mほどの井戸なども出土しました。

これまでも周辺では条坊道路の痕跡が確認されてきましたが、今回の調査では宅地内部の土地利用の一部を知ることができました。



▲調査区と藤原京期の建物跡（南から）